

6. 学習展開

	学習展開	教師の支援
導入	<p>1. 委員会活動をしているときの写真を提示し、委員会活動をしているときの自分について振り返り、めあてについて話し合う。</p> <p>一生懸命しようと思っっている。 ・楽しくしたい。 ・遊びたいなあ。 ・きついなあ。</p> <p>めあて 高学年として、何が大切か考えよう。</p>	<p>○ 子どもたちが委員会活動のとき、どんなことを考えるよきように事前にアンケートをとっておく。</p>
展開前段	<p>2. 資料「バトンをつなげ」を読み、バトンの意味について話し合う。</p> <p>(1) 資料「バトンをつなげ」を範読する。</p> <p>(2) 6年生のことを考えて、「六年生を送る会」の計画をたてているとき</p> <p>がんばるぞ ・6年生に喜んでもらうぞ ・うまくできるかな</p> <p>(3) 6年生がすすんで動いているのを見たとき</p> <p>なんでもうまくいがないんだろう ・これじゃ喜んでもらえない ・6年生はすごいなあ</p> <p>(4) 「私たちのバトン受け取ってくれたね」と市川さんから言われたとき</p> <p>わたしたちにもできた。 ・喜んでもらえるからうれしい。 ・6年生を送る会なのに手伝ってもらってしまったがしなければいけなかった。 ・6年生みたいみんなのことを考えることができるようになりたい ・次はうまくいくようにがんばりたい</p> <p>6年生のよさを引きつぐことが大切</p>	<p>○ 資料「バトンをつなげ」の内容を理解することができるように、説明を入れながら範読する。</p> <p>○ 場面の様子を視覚的に捉えることができるように挿絵を提示する。</p> <p>○ 本間さんの考えの変容を視覚的に捉えることができるように構造的な板書にする。</p> <p>○ 子どもたちが主人公になりきって考えることを事前に空欄にしておき、資料を事前に読むように指導する。</p> <p>○ ように自分で道徳ノートを明確に書かせることができる。</p> <p>○ 子どもたちが考へを細かく表現させる。</p> <p>○ 子どもたちが考へを視覚的に表現させる。</p>
展開後段	<p>3. 自分たちが引きつぐことについて話し合う。</p> <p>(1) 自覚をもって取り組んだ6年生の作文について話し合う。</p> <p>(2) 教師の説話</p> <p>(3) 自分たちが引きつぎたいことや高学年を自覚して取り組んだことについて話し合う。</p> <p>委員会活動で責任もってしたい ・縦割り掃除で低学年とがんばった ・困っている低学年にやさしくしたい ・低学年にゆずってあげた</p>	<p>○ 子どもたちの最高学年にむけての意識を高めるために6年生の子どもに作文を読んでもらう。</p> <p>○ 高学年として自覚をもって取り組むことが具体的に表現することができるようになる。</p> <p>○ 「たとえば」をつかって発表させる。「たとえば」として自覚をもつて取り組んだことを振り返ることができるようになる。</p>
終末	<p>4. 今日の学習で何がわかったかについて話し合う。</p> <p>(1) 今日の学習で何がわかったか道徳ノートに書く。</p> <p>(2) 今日の学習で何がわかったかについて話し合う。</p>	<p>○ 自分の考えを明確にするために道徳ノートの自分の考えを書かせる。</p>

委員会活動をしているとき

一生けんめいしよう
楽しくしたい
遊びたいなあ
きついなあ

めあて

高学年として何が大切か考えよう

バトンをつなげ

六年生を送る会の計画
をたてているとき

挿 絵

がんばるぞ
よろこんでもらうぞ
うまくできるかな

すすんで動く六年生を見たとき

わたしたちのバトン

六年生のよさを
ひきつぐ

なんでうまくいかないんだろう
よろこんでもらえない
六年生はすごいなあ

「わたしたちのバトンを受け取ってくれたね」

表情図

わたしたちもできたからうれしい
よろこんでもらった
手伝ってもらってしまっ
わたくしたちがしなけれ
おたまたまにたいが
六年生みたいにかせ
次はうまいくいせ
ようにならう

挿 絵

バトンをつなげ

組 名前

めあて
高学年として何が大切か考えよう

市川さんから「わたししたちのバトン受け取ってくれたね」と言われたとき

識 六年生のどんなことや心を引きつぎたいか、また高学年を意
識して取り組んだことを書きましよう。

たとえば

今日の学習で何が分かりましたか